

全国木材資源リサイクル協会連合会
平成25年度第2回木材資源リサイクル調査広報委員会議事録

開催日時 : 平成25年10月23日(水) 13:30~15:20

場 所 : 中央区立産業会館4階第2集会室

出席者 : フルハシEPO(株) 仁木 智之 委員
住友林業(株) 矢吹 賢二 委員
萬世リサイクルシステムズ(株) 桑野 俊 委員
(株)荏原環境プラント 山本 伸也 委員
連合会専務理事 弘山 知直 委員長
関東協会専務理事 原 信男 委員
北日本協会 伊藤 孝典、
東海協会 三崎 隆照
近畿協会 三砂 和浩
中四国協会 岡崎 博紀

(欠席委員)

亀井産業(株) 亀井寿之委員、(株)チップ興業 彦坂裕一委員、
九州協会 河野 秀彦

(オブザーバー出席)

鈴木 隆 理事長、彦坂 武功 名誉会長、鈴木重芳 顧問、
(事務局) 椎津まゆ美、

<会議概要>

1. 委員長挨拶

お忙しい中、本年度2回目の委員会にご出席いただきありがとうございます。
す。

木質チップ市況価格の見える化や、品質規格の課題については、色々と議論
があったが、ようやくゴールが見えてきた状況である。また、本年度の予定し
ている様々な事業についても、順調に推移していると聞く。

本日は、本年度後半の課題をクリアして行くための基本方針を議論する会に
なるので、忌憚のないご意見を頂戴したい。

(委員の出席状況報告)

本日は、2名の委員が欠席だが、6名の委員が出席しているので、委員8名

の過半数が出席として、議決が必要な場合、委員会としての決定が可能な状況であることを報告した。

(前回の委員会議事録の確認)

前回の委員会は、8月2日に開催し、「木質チップ市況価格の見える化検討ワーキンググループⅡ」が4月以降検討を重ねてきた経緯の中間報告を行った。

その結果、WGの提案する内容でアンケート調査を実施し、その集計結果を9月26日開催の理事会に報告することが了承された。但し、理事会への報告の前に、アンケートの回答状況について検証する必要があるため、理事会の前にもう1回WGの会議が必要とされた。

例年実施している会員向けとユーザー向けの需給調査については、本年も実施するが、会員向け調査は、市況価格調査と重複する部分があるので、本年から一部項目を整理することとした。

「木材サミット」の状況報告とその後の対応方針、海外先進地視察の概要についての説明を行ったが、特に異議はなく、了承された。

その他、「バイオマス発電計画一覧」の作成、FITに係る木質チップの品質規格の統一、「製品チップの混入物」対策についての検討状況について説明し、意見を求めた。

その結果、いずれも事務局の今後の対応案について了承された。

2. 議事要旨

(1) 「木質チップ市況価格の見える化」について

桑野WG座長

4月から9月まで6回にわたり会議を開催した結果を、9月26日の理事会に諮り、了承された。

本日は、アンケート結果を取りまとめた集計表と公表様式の素案について説明する。伏字とする基準や、品質グレードの区分については原案を変えない範囲で、公表しやすいように配慮した。

また、当初案の13地域は、地域の状況から南九州を北部九州と、四国を中国とそれぞれ統合し、11地域に再編した。また、北海道、北陸地域は残すが、当面会員数が少ないので、結果的に数値の公表は伏字になる。

また、今後3月と9月末時点をアンケート調査の対象とし、それぞれ4月、10月に調査し、5月、11月に結果を公表して行くことになる。それ以外の月は、各地域2社の定点観測会社を定めて、個別に報告してもらい、公表数値に差が生ず

れば更新して行くことになる。

その定点観測会社の案を示したので、確認願いたい。

これで懸案であった課題が前進したことと、多くの関係者の期待に応えられることになったことをとても喜んでいる。

困難な仕事を引き受け、ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

定点観測の会社の回答様式等は、まだ固まっていないので、今後事務局で検討し、案を提示したい。

Q：実勢調査票の「販売価格の動向」は価格に限定せず、幅広い最近の動向についてのコメントを記入してもらうため、「販売価格等の最近の動向」にした方がいいのではないか。

A：了解。そのように変更する。

Q：定点観測社からの報告は、地域の平均的な価格を報告することになるのか

A：あくまで対象会社を取り扱った実績値を報告してもらう。他社のことを配慮すると混乱が生ずる。

また、定点観測対象社からの報告は、2社の回答内容に差がある場合どう取り扱うかのルールは、一般的な恣意的でない範囲で2社の平均的な数値を記載して行くことになると思う。

11月に入ったら、定点観測社にメールで回答用紙を送るので、その用紙に記入し、その後9月と3月を除いて毎月15日までにメールで送信願いたい。

Q：公表様式にカッコ表示が何種類も出てくるが統一が必要。

伏字を*印にし、マイナスは△で表示するなど、混乱を生じさせないような配慮が必要。

A：そのように修正する。

HPへの掲載については、特にプレス発表するなど、公表について積極的なPRをしないことで一致した。

い

(2) 燃料用木質チップの品質規格（推進協議会案）とのすり合わせについて

弘山委員長

沢辺私案に対する意見として、これまでに次の3点が出されている。

①特に有害物の基準は、試料採取、分析法、調査頻度、調査者、費用負担などをセットで定めないと、責任があいまいになり、形骸化する怖れがある。

②寸法規格については、当連合会の品質規格が、粗悪品を排除することを最大の目的として制定された経緯から、最も重要な規格であると認識している。

にもかかわらず、基本的に排除すべき大きな寸法のものまで規定されており、このまま許容するわけにはいかない。

少なくとも 250mm の規格を除くか、長さの規格そのものを削除すべきである。

③塩分については、重要項目だが、木材中の塩分は含有量分析以外では精度、回収率とも不十分でコストがかかりすぎる。

そこで、このたび東京都産業技術研究センターが開発した、塩分調査法をここで採用するよう盛り込まれたい。

以上の意見を 11 月 13 日開催予定の推進協議会で意見として述べることにすることで了承された。

なお、この基準設定に伴い、従来自主的調査を行ってきた C C A については、定期的なデータ把握が必要になってくると思われるので、その扱いについても今後検討課題としたい。

(3) F I T 認定要件の見直しについて

状況の変化と、関係機関からの要望から一部取り扱いに関する基本方針を、実施要領を改正しない範囲で見直すこととした。

認定申請の受理要件と、認定するための担保、審査基準等の統一的なマニュアルを定めた。

これらの事項の細部は、本日委員会終了後に、協会事務局担当者を対象に勉強会を企画した。

また、特に発電事業者から、最近不適切と思われる事例や、取引業者にこの制度を理解していないケースが見受けられるので、研修会のようなものを開催してもらえないかとの要望があった。

そこで、林野庁、ガス機器検査協会に相談したところ、合同で開催してもよいとの回答を得たことから、日程を調整して、3 社合同の研修会を全国規模で企画して行きたい。

ついでに、11 月 20 日に日報ビジネス主催のセミナーがあり、理事長が講演予定のため、間に合うように資料を作成しているところである。

バイオマス発電マップについては、一部重要発電所が落ちているので、日報ビジ

ネスに修正するよう要請する。

(4) ユーザー懇談会について

11月22日(金)開催のユーザー懇談会について、開催通知を出したユーザーリストを提示し、追加して通知する必要があるユーザーのリストアップも呼び掛けた。

その結果、これまで案内を送付しても一度も出席がないため今回は通知していない市原グリーン電力について、本年は案内を出すこととした。

また、本年度の需給調査結果の集計結果報告は、その席で事務局から行う。

なお、この調査については、本委員会での重要検討事項であるが、市況調査に合わせて根本的に見直す時期に来ているので、より良い精度で、統一的な集計ができるようにしていきたい。

このため、今後の委員会の重点課題にしていきたい。

(5) 「エコプロダクツ 2013」について

12月12日(木)~14日(土)東京ビッグサイトで開催する展示会に例年通り出展するが、例年通りスタッフの動員が必要であるので、一応分担表を提示した。交替要望があれば調整するので、申し出てほしい。

本年の展示物として、パレットの廃材と再生品を展示したい。

また、配布物として、さくらチップとひのきチップ、堆肥が候補に挙がっている。

それ以外にも候補があれば申し出てほしい。

(6) その他

ア、「出前講座」について

足立区の「あだち再生館」から小学生を対象に木材リサイクルについての出前講座ができないかとの申し出があった。

当連合会が目指しているCSR活動とも一致するので基本的に受けることとした。

既に具体的になっている案件として、足立区立弥生小学校で、12月9日(月)に東武環境センター(株)八潮工場を視察することを中心とする講座が計画されている。

同様の企画で、同区花畑小学校、平野小学校とも打ち合わせする予定がある。

イ、製品チップへの混入物対策について

これまでの経緯と、対策状況を桑野座長から報告した。

ここでの取りまとめ結果と、北日本協会で作製したポスター、パンフレットなどを参考にして、各地域協会、会員向けと、取引先の物流会社向けにマニュアルなどを作成して、注意を呼び掛けることにしたい。

また、定期的に会員相互の事例発表会を開催することなどを提案したい。

一方、原関東協会専務理事から、6月に発生した合成木材の混入によるボイラー障害について報告し、関東協会では、既に会員向けに注意喚起文書を出したり、国土交通省や、先端技術センターに報告したりしている。

9月にFRPメーカーも参加して現場で打ち合わせを行い、今後の対応については、製品の使用先や注意を呼び掛ける足り、今後の製品に表示をするなど着々と対応が進んでいると言えること。

さらに、障害の原因となった合成木材のサンプルを東京都産業技術研究センターに送り、蛍光X線分析をしてもらっている、との報告があった。

理事長から、放射性物質を含む木質チップの問題が週刊誌に取り上げられているが、福島県産のチップの取り扱いについては、充分注意するよう、コメントがあった。

次回委員会はチップの市況価格の公表後の反響により、必要があれば開催することとし、その場合は、一応12月末か1月に設定し、日程は、他のスケジュールの進行状況を見て改めて決定することとした。

閉会：15:20

以上

(文責:弘山)